

令和元年度第3回淡路市子ども・子育て会議（第19回） 会議録

開催日：令和元年12月24日（火）13：30～15：40

開催場所：市役所2号館3階大会議室6・7・8

出席委員：15名 欠席委員：5名

傍聴人：1名

開会あいさつ 伊木会長 より

委嘱状の交付

会長、副会長の選出

会長：伊木委員、副会長：三浦委員

協議事項 淡路市子ども・子育て支援事業計画骨子について

説明：「淡路市子ども・子育て支援事業計画 第2期 骨子案」

<委員からの意見>

会長 P.11「(3) 子育てに関する相談者の状況」で、相談相手に7～8割を占める祖父母や友人と同じレベルで、1～3割を占めている保育士、教諭、医師が入っているが、まとめてしまっているのか。そこを加味しなければ、地域のニーズが見えてこない。

また、相談相手として子育て支援施設があるが、施設が子育ての相談相手ではないためわかりづらい。

事務局 文章を分けるなどわかりやすくする。

子育て支援施設については、文言を補足する。

委員 P.13 病後児保育事業について、知っていたけど使いにくいから使わなかったとか、知らなかったから使わなかったとかいうデータはあるか。

事務局 今回のアンケートの表紙に、病後児保育が始まった旨を記載しているため、回答された方は知った上で回答していると思う。

会長 P.17 の自由意見に、病後児保育の利用方法がわからないので説明をしてほしいという意見がある。

委員 乳児健診などの機会に、病後児保育があるということを行政の方から積極的に宣伝していく必要がある。

会長 P.22,23 課題のところにも病後児保育の文言が具体的に上がってきた方がよいのではないか。

事務局 病後児保育については、保護者向けに説明会や、広報、ホームページに挙げているが、周知がまだまだ足りていない。今一度周知の方法なども含め検討したい。

委員 病後児保育について冊子などを作成し、配布してはどうか。

委員 子育て応援課と相談しながら啓発を行いたい。

委員 子育て世代の人の相談や集いの場の充実をどのくらいのエリアをめどに考えているのか、地域の中での子どもの居場所の充実がもっと広い範囲なのか

という視点が少し入ってくると、より課題としては見えてくるのではないか。

また地域のつながりという言葉が課題の中にあがってくると、地域で切れ目のないつながりをつくることが意識され、子育てだけではなく、高齢者や地域の課題解決にもつながるのではないか。

会 長 淡路市は旧五町でかなり特徴があり、また高齢者が多いという特性を踏まえると、世代間交流ということも含めてはどうか。

委 員 世代間交流という言葉は、淡路市の課題を考えるうえでやはり重要だと思う。旧五町の状況も踏まえて課題意識が上がると、今後集いの場や相談体制作りにも見通しが立つのではないか。

事務局 旧町単位で、学習センター等を設置している。今あるデータが旧町単位で分析すると、細かい課題が見つかるかもしれないので、データを細かく分析することができるのかを検討したい。

会 長 細かい課題は、P.22 の多様なニーズのところに入り込んでいるかもしれないので、きれいな言葉ではなく、包括ケアシステムのように身近な地域に沿った具体的な言葉で表現してはどうか。

委 員 淡路市には産科がないため、子どもを産むには大変だという課題がある。子育ての際や、次の子どもを産むときに産科の先生にかかることがあるが、身近にないと難しいので、子どもを産むことも課題に入れてはどうか。

委 員 聖隷淡路病院の産科は、人員の確保が難しいため閉鎖した。全国的にどんどん産科が閉院になっており、淡路も同じような状況にある。

委 員 現状は分かっているが、いろんな場で言っていないことには何も始まらない。計画のなかで、産科を広げていく、助産院を誘致するというようなことを入れるといいのではないか。

会 長 妊娠期から子育て期という文言もあるので、切れ目のない支援というのがこの子ども子育て会議のベースになっているため、そこは無視してはいけない。市としてはどういう風に考えているか。

事務局 産み育てやすい地域を作っていくことが目標である。聖隷淡路病院の産科は、島外の大学などに人員要請しても、人員の確保が難しく休止に至った。テレビ等でもあちこちで分娩取りやめについて放送されているのはご存じかと思う。私どももこれからも聖隷淡路病院への働きかけはさせていただくが、確保については医師会の協力を得ながら進めたい。必ずしも市内で安全に産めるということではなく、淡路の医療圏域として安全な分娩の確保をするという形であれば可能だと思う。

委 員 神戸市や明石市などで出産し、その交通費の補助金を出すことが現実的かと思うがどうか。

事務局 それについては今回補正予算を打ち、島外の分娩について若干だが支援をさせていただいている。市内に医療機関の確保は今の段階では難しいと思っている。島内で医療機関が整うよう推進していくというようなことであれば、書けるとは思う。

- 会 長 充実することが重要で、推進という言葉が課題のところに入れるのが現実的かもしれないし、また別の方策が出るかもしれない。
- 委 員 子ども同士のもめ事があった時、親御さん同士のコミュニケーションが取れているかとれていないかでトラブルが小さくなるか大きくなるかということがある。顔も知らないお母さんに対してトラブルをどう対処していいのかわからないことが多くなってくる。現在は、PTA の行事として講師を呼んで、座学を行う集いが多いが、PTA の集まりの場所や懇談会の場でうまく親同士のコミュニケーションを構築させることによってこの会議で話されていることが伝わる仕組みができるのではないかと。
- 会 長 事業を推進していくための計画の中にある「集いの場」にもいろんな切り口があるということに生かせるのではないかと思う。
- 委 員 学区の編成にともなって淡路からでも神戸方面に通学するという学生が増えてきている。大学生には、通学補助が出るが、高校生はない。通学の選択肢が増えても、経済的負担で断念する家もあると聞いている。そんな支援も今後ある雰囲気になってくれるといいと思う。
- 会 長 自由意見と課題はどういう風につながってくるのか。
- 事務局 7 項目の課題は、基本的な内容をまとめたものである。7 項目の課題に挙げなければ淡路市として、対応できないということではない。予算等の絡みもあるが、自由意見からでた意見に、できるだけ対応していきたいと思う。
- 会 長 アンケートの結果は、保護者の皆様には、この計画でしか開示されないのか。
- 事務局 自由意見の個別対応としての回答は難しい。
- 会 長 自由意見を載せるのであれば、フィードバックの考え方を書いておく方が良いと思う。
- 事務局 子育て応援課だけが作っている事業ではないので、各課にフォローしてもらいながら、調整等も必要であるので、相談させていただきたい。
- 副会長 自由意見にはこういう対応をしていますと答えていってもらったらどうか。質問した人だけではなく似たような疑問を持つての方に対して、Q&A のようなものができたら、ほかの方にも子育てのヒントになるのでは。
- 事務局 子育て支援計画として計画の中に回答を盛り込むか、計画とは別に自由意見の回答を示せるか検討する。
- 会 長 意見へのフィードバックは大事である。
- 委 員 P. 17 の「居場所、気軽な相談、交流の場について」の意見が P. 22 の「相談・集いの場の充実」という課題につながっていると思うが、淡路市には、土日祝日に、おむすびのひろばや子育て学習センターが閉まっているなど遊ぶ所がない。6 月から個人的に日曜日に子育てカフェをやっているが、そこに来るお母さんは喜んでくださっている。今日は来年からのことを審議されるかと思うが、新しくできる子育て学習センターを土日祝日も、月に何回かでも、開けていただくような方向で、子どもの居場所づくりを提案できたらと思っている。
- 事務局 子育て学習センターの土日祝日の開放は、行政としてケガ、事故が起きた時

- の責任を考えると職員の配置も含めて慎重に検討したい。
- 委員 保育園に入園すると平日のみ開園している子育て学習センターは、利用しなくなるのでニーズは減るが、淡路市内に遊ぶところが少ないので土日、開園してもらえればニーズは高まると思う。
- 委員 児童館があれば良い。小学生の休日の遊び場はなく、平日学童に行かない子は行く所がない。
平日仕事をしているお母さんのためにも、土日遊び場を作ることで、親同士のコミュニケーションの場も生まれる。
- 委員 学童保育を希望する保護者が年々増えている。6年生まで受け入れを行っている。
P. 16 自由意見の「学校・教育環境について」で、「学校の先生、支援員を増員し、先生の負担を軽減してほしい。」とあるが、法律に則って市のほうで適正配置していただいている。「1クラスしかないので他校と交流を。」とあるが小中連携を目指しているところですし、同じ中学校区での小小連携の交流もしているところです。各学校で保護者へアナウンスしているが、まだまだ周知できていないということが自由意見で伺える。
- 会長 病後児保育、子育てに対する相談者の状況、居場所づくりというところで今後どうしていくか。P. 16, 17 の自由意見と P. 22, 23 の課題との関連性、一貫性を事務局でもう一度検討願います。
- 委員 子育てをしている時は、情報がなかなか手に入らなかった。つながりを持っていない人は、どのようなきっかけで情報が得られるのか。子育て学習センターに行けば情報は手に入ると聞くが、行かないと情報が得られない。いくらいい制度を作っても、その情報が得られる仕組みのほうが大切と感じる。アプリを開発するのは良いが、知ってもらふ仕組みが大切でアプリの周知のために何をするのか検討してほしい。
- 事務局 現在、子育て情報をまとめたハンドブックを毎年作成し、赤ちゃんの検診の時など周知は行っているが、行政の考える周知の仕方ではなかなか普及しにくいという話だと思う。一方的に情報を出してもキャッチしていただけない。市民の皆様の意見をもとに仕組みを考えていきたい。
親同士のコミュニケーションが希薄化している中で、再構築は必要であると考える。
- 委員 市民と行政の信頼関係を構築するために、自由意見は回答したほうが良い。子どもが今後減っていくことに対して、保育の質の向上と、こどもの救急体制の構築、産科の充実など、何かあったときの不安を取り除く必要がある。島内では、なかなか対応できないことがある。課題の8番目にでも入れていただくと安心して子育てができるのでは。
- 会長 小児医療の充実や、ネットワークづくりの構築をしていく必要がある。
- 委員 病院の診療時間と夜間の救急診療の時間の間（朝、夕方）の救急対応がなかなかできていないのは事実である。
- 副会長 淡路の3市による救急体制は、広域でないと難しいのか。

- 委員 夜間はそう思う。現在、小児科を担当している医師は、3名のみでありいずれも高齢化している。大学とも連携しているが、10年後継続しているかは、不透明である。
- 副会長 子育てハンドブックには、診療について記載している。何かあったら子育てハンドブックを見て対応できるので広報してほしい。
自由記述の対応は、子育てハンドブックに載せても良いのではないか。
- 委員 育児休業の取得に向けた啓発は、具体的にどういったものを考えているのか。
- 事務局 啓発は、市役所が率先して、お子様が小学校に上がるまでの間の時短勤務を導入しており、大企業、中小企業に対しては、パンフレットやHP等で見ていただけるようなものを検討していきたい。
- 会長 P.49 子育てネットワークについて、関係団体を可視化はしないのか。
- 事務局 子ども子育て会議に出席していただいている団体が、子育てネットワークの関係団体である。言葉より図で、示せないか検討する。
- 委員 虐待に対する支援のために、新しく、子ども家庭総合支援拠点を整備し、より一層虐待のお子さんを少しでも早く発見して予防ができたらと考えていて、子育て世代包括支援センターと連携していく。
- 委員 自由意見で、保育の質についての項目がいくつか上がっているが、保育士も研修会等に参加してスキルアップに努めているが、あまり親御さんへ保育園・こども園の取組が伝わっていないように感じる。
- 委員 自由意見をどうしてここに挙げているのか。参考資料として最後に入れることが多い。また、質問に対する答えは、対応できるものだけピックアップするなどして、載せればよいのではないか。また、答えが具体的に出なくても、計画としてどのように対応しているのか分かるように書くと良い。P.22,23の言葉の最後の言い回し、「必要です」「重要です」「望めます」などの言葉の使い方をしっかり説明しておかないと誤解を与える。国・県に要望することと、市がやらないといけないことを説明する必要がある。
- 会長 課題の記載は、客観的に述べられているため、もう少し具体的に記載するとわかりやすい。
- 委員 西浦地域では、トラックの交通が非常に多い。交通安全の確保として、スクールゾーンであることが周知できるように対策してほしい。
- 委員 幅員整備は、カーブや路肩の関係でできない所もある。
県道31号線は、行政として課題があると認識はしているため、今後要望していく方向もある。
- 事務局 カラー舗装に関しては、P.51においてすでに、記載している。
- 委員 保育園の先生やこども園の先生に気管吸引の研修を受けられるようにしてほしい。
- 委員 P.44 子育て支援サービスの充実とあるが、言葉に消費者のイメージがあるサービスよりサポートといった文言の方が親は利用しやすいと思う。サポートの充実内容としては、学習センターと保育園のつながりを確保してほしい。

い。

委員 自由意見は保護者として、一番共感するところである。アプリを開発するにしても、保護者が使いやすく、役立つように、子育て世代の意見を聞いて開発してほしい。アプリは、お知らせ情報が通知としてくるので、良いと思う。アプリを通じて皆がつながるようにしてほしい。

その他

- ・1月10日～25日にパブコメ実施予定。
- ・次回の子ども・子育て会議は2月18日の予定。

開会あいさつ 三浦副会長 より

以上